

子どもたちの生まれた場所や国籍に関わらず、子どもたちの生まれた場所や国関係なく地球市民(global citizen)としてつながっている子どもやRST保育士はみなさんにどう映りましたか

- 違いを認め合い、それぞれの想いを尊重し合うことは日本の社会を考えると全て行うことは難しいと思うところがあるが、RSTなどのインター園だとそれぞれの背景を尊重することが出来ると考えた。
- どの子どもたちも保育士さんたちも自分の個性を活かしながら活動しているように思えました。言葉の壁があっても問題ないほど、自分との多くの共通点を感じました。地球市民という言葉を実感出来ました。
- 子どもたちと保育士さんの関係が、私がみたかった関係性であったと感じた。分けて立てなく、誰かを特別視するわけでもなく個人として子どもたちとの関係性を作っているところに感銘を受けた。みんながお互いを理解している雰囲気があり、この環境が色んなところで当たり前になれば、異文化同士の誤解は少しずつ無くなるのでは無いかと感じた。
- 子どもたちが安心して自分の意見を言い、大人に頼れる環境は素敵だと思った。保育士さんが子どもたち1人1人の個性をしっかりと尊重する姿を見ているから、子どもたちも自然とお互いの違いを受け入れる柔軟性、寛容な心を持っているのかなと感じた。
- これからの日本ではインクルーシブ保育が求められる時代となってきたため、国籍や人種を問わず接し方は平等であった。
- 人種やルーツの違いで区別しない保育だと感じました。とても興味を持ちました。
- 生まれた場所や言語関係なく、おそろいのカバンや洋服の色など、子どもたち同士でその場その場を楽しんでいる様子が見られました。保育者の方は子どもに過干渉せず、見守っている様子があり、日本と近い部分もあれば自由度の高いところもあり、興味深かったです。
- 海外保育士さんは、ワークショップの時に、助言をする形ではなく、それいいね！という感じで関わっていたのが印象的でした。私は、「こうしてみたら？」と助言されることが多かったので、子どもたちのやっていることに対して共感するように関わるのが子どもに寄り添っているように映りました。
- 今回実際に生まれた場所や文化、言語が違う子ども達を関わって、そうした異なる背景を持つ状況でも、伝えたい、会話したいという気持ちがあれば、自分の話せる英語やジェスチャー、表情などを使って、十分に会話でき、伝えることが出来ると感じました。このことから、違いを理解し、お互いに歩み寄る気持ちが大切だと感じました。とても素敵だと感じました。理想とする人々の繋がりであると思いました。
- 国籍などは本当に関係なく人々は仲良くなれるのだと実際にレッジョの皆さんを見て感じました。
- 子どもたちや保育士の方々は自由に行動しているように感じた。また、お互いの意思を尊重してできるだけやりたいことが出来るように対話を重要視していると感じた。
- 実際に見ることが少なかった文化の違いなどがあったが自分らしくいて素敵だなと感じた。
- 共通言語は英語じゃなくて笑顔だと思う、というある歌の歌詞であるように本当にその通りだなと思った。確かに、英語が話せればより心を通わせることが出来ると思うが、子ども達や先生方が笑顔だったからこそ、私も緊張していたけれど少しリラックスすることが出来た。
- それぞれの個性、姿を大切にしてお過ごししていると感じた。
- 誰とでもその場にいた人と仲良く楽しく活動していてとても良いなと感じました。
- 多文化に触れるだけでも子どもに大きなちがいが生まれていて、面白いと思った。